

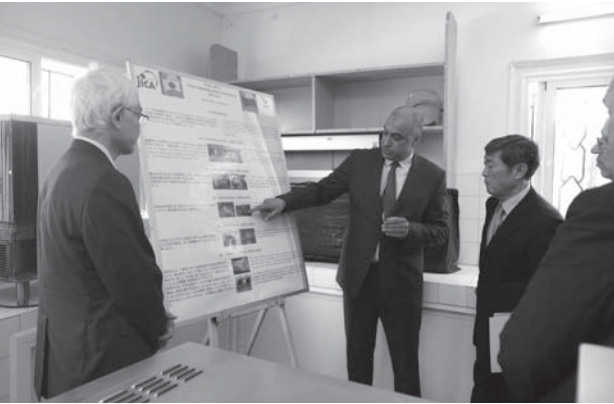
北岡理事長がモロッコ訪問 協力関係強化を再確認

01

北岡伸一 JICA 理事長は、1月16日から17日にかけてモロッコを訪問し、政府要人と面談しました。また、円借款貸付契約の調印式への立ち会いや、JICA の協力事業現場の視察、日系企業や他の開発援助機関との意見交換も行いました。

1月16日、北岡理事長は首都ラバトを訪れ、アブドゥリッラ・ベンキラン首相、モハメッド・ブーサイド経済・財政大臣、アジズ・アハヌッシュ農業・漁業海洋大臣と面会しました。その席で北岡理事長は、中東・北アフリカ地域だけでなく国際社会にとっても地政学的に重要なモロッコが、今後も安定と包摂的成長を継続できるように、相互の協力関係を維持・強化することが重要との見解を示しました。さらに、アフリカ地域の発展に向けて、モロッコが主体となって手掛けるサブサハラ・アフリカ諸国への開発協力を引き続き日本が支援していきたいとの意向を表明しました。モロッコ側の各閣僚は、50年に及ぶ JICA の協力に感謝を示すとともに、モロッコのさらなる発展に向けて日本の支援に期待していると述べました。

この日、北岡理事長は、水産資源管理能力の向上を目指して JICA と国立漁業研究所の間で署名された有償資金協力「海洋・漁業調査船建造事業」の貸付契約の調印式に、ブーサイド経済・財政大臣、黒川駐モ



ケニトラ市の農学研究地域センターで、JICA ボランティアの活動実績について説明を受ける北岡理事長

ロッコ日本大使とともに立ち会いました。翌17日、北岡理事長はラバトの南東に位置するケミセット市を訪れ、有償資金協力「地方都市上水道整備事業」で整備された上水道施設が同地域の安定的な給水に貢献している様子を視察しました。また、ラバト北西部に位置するケニトラ市にある農学研究地域センターで活躍するシニア海外ボランティアの活動を視察し、雑草防除をはじめとする日本の農業分野での知見に対し、現地の関係者が高い関心と期待を寄せていることを確認しました。北岡理事長は今回の訪問で、モロッコに拠点を構える日系企業や他の開発援助機関と、それぞれ民間連携や援助協調などの観点から意見交換も行いました。

国連世界観光機関とともに、観光分野の支援強化へ

02

JICA は、1月17日、観光を通じて国際協力への貢献の促進と強化に向けて、国連世界観光機関 (UNWTO) と協力覚書を締結しました。

JICA は1970年代から、観光開発計画の策定や、観光マーケティング・プロモーション、観光人材の育成、自然遺産や文化遺産を活用した観光地域振興など、観光分野の支援を実施しています。第三次産業が拡大する中、観光産業も重要性を増しており、観光開発支援は開発途上国の地域経済の発展や雇用創出、格差是正に貢献します。

2015年に国連によって採択された持続可能な開発目標 (SDGs) でも、観光を通して有形・無形文化遺産の保護や自然環境保全に配慮しながら地域の雇用や収入を創出し、持続可能な発展を後押しすることが期待されています。JICA と UNWTO は今後、途上国における観光政策や戦略の策定、組織能力強化などの面で共同支援を行うとともに、観光開発の在り方についての共同調査・研究を進める予定です。



署名式に臨んだJICAの越川副理事長とUNWTOのリファイ事務局長(右)

国際協力関係者の安全対策研修

03

JICA と外務省は昨年7月12日に「国際協力事業安全対策会議」を設置し、関係省庁や有識者、業界団体、NGO などの協力の下、国際協力事業関係者の安全対策を強化しています。

JICA はこれまで、開発途上の政情や現地安全リスクに備えた研修などを実施してきました。同会議がまとめた最終報告書では、①脅威情報の収集・分析・共有の強化、②行動規範の徹底・情報共有、③ハード・ソフト両面の防護措置と研修・訓練の強化、④危機発生後の対応への備え、⑤危機管理意識の向上を重点項目に掲げ、組織態勢の強化に取り組んでいます。さらに、昨年10月には、現場で開発協力に携わる民間企業や自治体、大学、NGO などの関係者を対象に安全対策研修・訓練を開始。座学研修や実技訓練に加え、ウェブサイトも活用しています。

座学研修では、危機管理アドバイザーがテロなど海外での脅威について解説。実技訓練では、セキュリティー会社の担当者を招いて、身を守るための実技指導を受けました。



安全確保の姿勢を取る実技研修の様子